

○岡田議長 次に、戸田議員。

[戸田議員質問席へ]

○戸田議員 会派自由創政の戸田でございます。よろしくお願ひいたします。本定例会に当たりまして、大要3点、尾高城跡について、上下水道の管路について、淀江ゆめ温泉について質問してまいりたいと思います。明快なる答弁をいただきますように、よろしくお願ひいたします。

まず初めに、尾高城跡について質問してまいりたいと思います。この問題については、何回も質問しておりますけれども、また改めて私の視点で質問してまいりたいというふうに思います。尾高城跡については、令和6年2月に国の史跡に指定されたところでございますが、その後、それに関わる事務がなかなか滞っておりますが、その推進状況、また管理体制について、まず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 国史跡に指定された後、令和6年度には案内看板の改修、仮設トイレの設置や除草回数を増やすなど、適切な管理に努めているところでございます。あわせて、歴史講座や現地ウォークなどを定期的に実施しております、尾高城跡の周知、活用にも努めてございます。本年度は6月と11月に通常は公開しておりません本丸、二の丸の特別公開を実施し、多くの皆様に御参加をいただいたところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど説明いただきましたけれども、今の本年度は6月と11月に市民の方々に現地に出向いていただいたと、公開

をしたというような状況下でございますけれども、しかしながら、なかなかその辺の実態が地元の住民の方々には理解できていないのが現状課題かなというふうに思っております。そうした中で、第2次の米子市まちづくりビジョン計画においては、歴史と文化に根差したまちづくりというふうに形があります。そうした中で、尾高城跡の保存活用計画を策定して、今後事務体系を整えていくんだというふうな記述があるんですけども、そのような状況はいかがでしょうか。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 第2次の米子市まちづくりビジョンの一つの柱でございます、歴史に根差したまちづくりにおきまして、尾高城跡の保存活用計画の策定は重点施策として位置づけてございます。尾高城跡の価値や魅力を共有するため保存活用計画の策定を通じまして、整備、活用に向けた具体的な検討を進めていきたいと考えてございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 改めて聞きますけれども、保存活用計画を定めていくんだということで、第2次のまちづくりビジョンに定めてあるんですけど、その中で、答弁の中ありましたように、今後は活用計画を策定して、整備、活用に向けた具体的な検討を進めてまいりたいというような答弁でなかったかなと思いますが、私は改めて尾高城跡については国史跡を踏まえて早急に保存活用計画を策定されて、その同城跡の保存を図っていく必要があるというふうに思っておりますが、改めてその辺のとこの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 尾高城跡の歴史的、文化的価値を後世に伝えていくため、適切な保存活用計画を策定しまして、着実に史跡の保存を図ることとしてございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 同じような答弁になるんですけれども、私の視点でいけば、尾高城跡については中世に築かれた居城でございまして、やっぱり堀、石垣など、また、すばらしい遺構等が残っておるというような状況下でございます。そういうふうな考え方からすれば、私は今年度も6月と11月に市民の方々に現地を見ていただいたようですが、やはりそういうふうな方々から保存活用計画を策定していただきて、早急にその事務体系を確立してほしいという御要望をたくさん私いただきます。そういうふうな観点からいけば、私は令和8年度中には用地について今の測量事務等に着手されて、令和8年度中には保存活用計画を策定すべきというふうに考えておりますが、市長さん、その辺の見解を伺っておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 この保存活用計画の策定につきましては、現時点におきましては2か年で取り組むこととしておりまして、現在国や県に対しまして、令和8年度から9年度の財源確保に向けた予算要望を行っている段階でございます。そして、その状況により必要な予算措置を講じてまいる予定でございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 令和8年度、9年度に保存活用計画を策定されて、

その事務を確立していくという答弁であったというふうに思いますが、くどくなりますがけれども、やはり私有地も公有地化をされたのが令和6年度でしたか、令和7年度中でしたか、そういうふうな形を思っておりますけれども、やはり令和8年度から今の保存活用計画に着手されて、今の中世に居城された尾高城の貴重な遺構等を保存していく、保護していくんだという、私は必要があるのではないかと思いますが、改めて市長の見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 この尾高城跡でございますが、おっしゃるとおり、中世の西伯耆の歴史の解明に重要な城郭でございまして、いわゆる土壘の城から石垣の城へと変遷を示す貴重な遺構が残ってございます。こうした遺構を確実に保存していくため保存活用計画の策定に着手をしまして、計画的に整備に向かえれますよう、国や県に対しまして必要な財源の確保を求めてまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 くどいような私の質問の仕方だったかもしれませんけど、やはり皆さん方が望まれておりますのは、早期に今の保存活用計画を策定されて、保存をしていただきたいというのが多方面からの御意見でございます。そういうふうな観点を私踏まえて質問をさせていただいとるんですけども、今の米子城跡に比して事務のスピーディーさがかいま見えてこない。改めて今般の質問の中で、市長さんのはうから令和8年度、9年度に保存活用計画を策定されて、令和8年度中には現地のいわゆる測量事務に入ら

れるということでございますので、この問題は了といたしますけれど、やはりこの問題についてもっとスピードアップを図られて、スピーディーな対応をしていただきたいと思いますが、その辺のところ、改めて市長さんの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員がおっしゃること、また住民の皆様が期待されてることにつきましては、私も重々承知しているつもりでございます。尾高城跡につきましては、今後の整備、そして活用に対する期待感、これは非常に高まっているという認識もございます。今年度でしたけれども、公益財団法人日本城郭協会が主催をいたします日本城郭協会大賞において、本市が調査・整備・活用賞を受賞したところでございます。これは尾高城跡の本丸、二の丸の発掘調査ですか、あるいは史跡指定までの取組が現在進行中の米子城跡の整備活用と連動し、そして、山陰地域の戦国史をより豊かなものにすると評価されたものでございます。このように多方面から注目が集まっているということを私も実感しておりますので、尾高城跡の保存活用を着実に進めてまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 前向きな答弁、ありがとうございました。本当に多方面からいろんな御意見いただきました。私有地を公有地化をして、なかなか戸田さん、事務が進まんじやないでしょうか、保存活用計画どうなんでしょうかという御意見を多数いただきました。地元の方々も注目しております、本当に動向を見定めておったわけですけれども、先ほど来から申し上げますように、令和8年

度に測量事務に入られて、令和8年度、9年度に保存活用計画を策定されるということでございまして、本当に私は大変心から喜ばしいなと思いますし、その内容についても多方面の方々にも御説明をして御理解を賜りたいというふうに思います。市のほうにも、そのような内容について、また市民等に広報なり、きちっと対応していただきたいと、これは強く要望しておきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

以上でこの問題については終わりたいと思います。

次に、上下水道の管路について質問してまいりたいと思います。これもメディアで埼玉県の八潮市が道路陥没があって、要因が下水の配管で、その陥没した理由というふうになっておるわけでございますが、本市においても国の要請があったと思いますけども、要請に基づいて今の下水道管路の調査事務をされたというふうに伺いますが、その内容についてまず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 全国特別重点調査についてでございますけれども、調査対象となりました管路の延長は2.14キロメートルでございます。そのうち原則1年以内の対策が必要とされる緊急度Ⅰが0.39キロメートル、応急措置後5年以内の対策が必要とされる緊急度Ⅱが1.66キロメートル、軽度の劣化が0.09キロメートルでございました。点検の際、管路内部からハンマーによる打音調査を行っておりまして、道路下に空洞がないことを併せて確認をしているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の調査の内容、説明いただきましたが、これはまた後ほど触れたいと思いますが、潜行目視調査、打音調査等の事務をされたというふうに伺いますけれども、また電磁波による路面の空洞調査を先般されたというふうで、報道から伺いましたけれども、その調査内容について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 路面空洞調査につきましては、点検の際に行いました管路内部からの打音調査において空洞は確認をされておりませんけれども、安全に最大限配慮する必要があるため、国が推奨しております上下水道DX技術カタログに登載の新しい技術を使用した路面空洞調査を実施したところでございます。これは11月18日に実施いたしまして、その調査結果につきましては、現在調査データの解析中でございまして、今月中をめどに準備が整い次第、公表することとしております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 総体的な今の調査内容を伺ったんですけど、ちょっと視点を変えますけども、主に下水道の管路については何年ぐらい経過しておりますか。その経過内容について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 管路の経過年数についてでございますけれども、下水道管路全体といたしましては、平成の初め頃に最も多く敷設しておりますので、おおむね30年程度経過しているところでございます。今回の点検箇所につきましては48年から55年ほど経過している部分でございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 55年経過をしている内容を披瀝されましたけど、ちょっと替えますけれども、このたびの調査結果により緊急度Iが0.39キロ、緊急度IIが1.66キロ、軽度の劣化が0.09キロメートルがありました。そこで、これらに対する修繕対応方針はどのように想定されておられますか。その辺のところ伺っておきたいと思います。

○岡田議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 修繕の対応方針についてでございますけれども、緊急度Iに対しますクラック補修などの応急措置を年度内に行いまして、緊急度IIについては来年度初め頃までには応急措置に着手する予定としております。また、管更生などの恒久対策につきましては、緊急度Iについては令和8年度に着手し、緊急度IIについてはその後可能な限り早く早期に着手したいと考えているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 緊急度Iについては今の原則1年以内の速やかな対応が求められておるということでございますが、そこで、この修繕、1年以内に対応しなければならないものについては令和8年度の当初予算対応を私はすべきではないかというふうに思っておりますけど、当局はどのように考えておられますか。

○岡田議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 当初予算で対応すべきではないかというお尋ねでございますけれども、予算措置につきましては緊急度Iの対策費用として約9億円を見込んでいるところでございますが、

来年度当初予算において緊急度Ⅰ及び緊急度Ⅱの対策費用を国に要望しているところでございます。また、本年度の国の補正予算においても緊急度Ⅰに対する更新設計費を要望しているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 緊急度Ⅰについては9億円ぐらいを要するというふうな見解でございました。そういう中でやはり当初予算で対応していかなければ、私はならないのではないかなというふうに思つておるところでございますが、メディアの中でもありますように、補正予算で老朽化下水対策というのはメディアで先般ございました。その中で、防災安全交付金を交付して今の対応をしていくんだけど、今後は上下水道の基礎強化というふうな施策も打ち出されてくるというふうに私は理解しております。こうした中で、そういうふうな国のいわゆる要請に呼応した対応をしていかなければならないというふうに思つておるところでございますが、今の緊急度Ⅱにおいては応急措置を実施した上で5年以内の対策が必要とのことであるというふうに思います。今後下水道の管路施設の修繕工事計画を策定して、私は対応すべきではないかと思いますが、その辺のところの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 下水道管路修繕基本計画の策定についてのお尋ねでございますが、現在老朽化対策につきましては、予防保全の観点からストックマネジメント計画を策定しておりますが、基本的にはこの計画の中でカバーをしていく予定でございますが、したがいまして、新たな計画をつくる考えはないと思っております。こ

のたび議員御指摘の全国特別重点調査の結果を踏まえまして、緊急度Ⅰの管路を最優先に対応する必要があるため、この計画を見直す予定でございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 現計画を見直して、それぞれの緊急度Ⅰ、緊急度Ⅱの修繕対応について当たっていくんだという考え方であろうというふうには理解しますけども、やはり私も思いますのは、緊急度Ⅰは原則1年以内、緊急度Ⅱというのは5年以内というふうな内容でございますので、本来なら修繕計画は改めて、私はその事務に対応すべきではないかなというふうに理解をしつつありますけれども、市長の答弁は、現計画のストックマネジメントの中で今の計画を改めていきたいという見解でございますので、それも了のなかなというふうに私は思いますけれども、ただ、緊急性は問われているのは事実でございます。そうした中で、米子市の「よなごの下水道」広報紙によると、上下水道管の健康診断が最重要とされているというふうに、米子の今の下水道の、こういう「よなごの下水道」見させていただいたんですが、こういうふうに定めておるんですけども、そのような形でおりますが、管理体制についてどのように今確立されておられますか。その辺のとこの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長 上下水道施設の老朽化が進む状況であっても、しっかりと市民生活を支えていく必要がございます。国においても新たな管路マネジメントの方策について検討がされておりまして、これらの知見を取り入れ、平時の点検調査、修繕を含め

た維持管理を強化することでライフサイクルコストの低減を図り、効率的な管路マネジメントを実現するため上下一体の組織力を生かした管理体制の強化に取り組んでまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 上下水道のインフラ設備については、先ほど答弁がありましたように、55年でしたか、経過しておるものもありますというふうな状況下でございましたが、それらの内容が散見されるところでございます。そうした中で、やはり住民の方々は、我がまちは大丈夫なのかなという声もいただきます。そういうふうな観点からいけば、住民の安心・安全確保の観点から予防保全を踏まえ、管理体制の拡充並びに修繕体制の強化が私は求められてくると思いますが、そうした中で、修繕については令和8年度当初予算対応措置をしていくんだと、先ほど質問しましたけど、改めてその辺の見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員おっしゃるとおり、上下水道の修繕予算につきましては令和8年度当初予算の措置に向けて準備を進めてまいりたいと考えております。また、下水道につきましてはこのたび全国特別重点調査におきまして、全国的に緊急度I、または緊急度IIが確認をされておりますことから、国において個別補助制度の創設や重点配分が検討されてると伺っております。これら国の動きを注視いたしまして、国の支援を最大限活用できるように努めてまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど言いましたように、国の防災安全交付金です

か、そういうふうな国の制度等を活用されて十分な対応をしていただければなというふうに思います。

そこで、視点変えますけども、第2次まちづくりビジョン計画においては、災害に強いまちづくりについて、上下水道施設の耐震改修の促進とあります。今後の方向性について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 本年1月に策定をしました上下水道耐震化計画に基づきまして、防災上重要な防災拠点や、あるいは病院などの施設を結ぶ上下水道管路の耐震化を優先的に進めることとしております。この優先すべき管路には、このたびの調査により判明しました緊急度Ⅰ、また緊急度Ⅱの管路が重複している部分もございますので、耐震化と老朽化対策を同時に進めることができると考えております。引き続きまして、災害に強く持続可能な上下水道システムの構築を目指してまいります。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 耐震化と老朽化が求められておるという市長さんの答弁でございます。まさにそのとおりだろうというふうに思います。やはり緊急度Ⅰ、緊急度Ⅱ、これは原則1年以内、原則5年以内の対応を求められておりますし、先ほどから説明がありましたように、老朽化の55年というような施設もあるというふうに思いますので、その辺の対応を求められてくるのかなというふうに思いますが、やはり昨今は公共インフラにおいて老朽化が否めないのが状況下でございます。今後においては、施設点検による老朽化の進捗の把握、可及的修繕対応が私は求められてくるので

はなかろうかというふうに思います。そうした中ではやはり管理体制の拡充がさらには図られていかなければなりませんし、その事務対応について私は十分な対応を求めておきたいというふうに思います。

以上でこの問題は終わりたいと思います。

次に、淀江ゆめ温泉について質問してまいりたいというふうに思います。淀江ゆめ温泉の利用状況並びに修繕状況、経営状況について、まず伺ってみたいと思います。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 淀江ゆめ温泉の利用状況等についてのお尋ねでございます。順を追って説明させていただきます。直近3年間における淀江ゆめ温泉の入浴者数の推移についてでございます。令和4年度が10万309人、令和5年度が11万4,790人、令和6年度が12万1,277人でございます。また、修繕状況につきましてですが、主な修繕状況としまして、100万円以上の修繕状況をお答えしたいと思います。令和5年度が女性風呂サウナ室の扉修繕で約120万円、同様に令和5年度が露天風呂の木堀更新、男性脱衣所の内装修繕で約950万円、令和6年度各フロアの非常ベルも兼ねている非常放送設備の修繕で約130万円を投じております。これは令和4年度には該当がございませんでした。

続きまして、直近3年間における指定管理業務の収支状況についてお答えいたします。令和4年度が収入1億2,421万4,000円、支出が1億1,217万9,000円、差引き1,203万5,000円でございます。令和5年度が収入が1億3,556万円、支

出が1億2,160万8,000円、差引き1,395万2,000円、令和6年度が収入が1億5,002万4,000円、支出が1億4,103万5,000円、差引き898万9,000円でございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の利用状況並びに修繕状況、経営状況について伺いました。経営状況についてはそれぞれ1,000万円弱の収益があったのかなというふうに理解はしておりますんですけども、そこで、淀江ゆめ温泉については25年ぐらいが経過したと仄聞するんですけども、ゆめ温泉の老朽化状況並びに今後の課題について、どのように考えておられますか。見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 淀江ゆめ温泉の老朽化状況及び今後の課題についてでございます。老朽化の状況につきましては、淀江ゆめ温泉は平成12年に開館して以来、約25年が経過しております。施設の老朽化が進んでいることは否めない事実でございます。指定管理者による維持管理のほか、施設の劣化や損傷状況を勘案し、当面の施設運営において必要な修繕を行ってきたところでございます。今後の課題についてですけれども、設備の定期点検や優先度を勘案しながらの修繕など、必要に応じた維持管理を行うことにより施設及び設備の延命化を図っているところでございますが、令和12年は築30年になることから将来的には大規模修繕の時期を迎えるものと、そのように捉えております。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 25年を経過して、今後は大規模修繕も想定をされ

るという答弁ではなかったかなというふうに思いますが、そこで、今のいろんな指定管理者制度を導入して管理をされておられるんですけれども、淀江ゆめ温泉の管理体制を改めて伺っておきたいと思います。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 淀江ゆめ温泉の管理体制についてのお尋ねでございます。淀江ゆめ温泉は本市所有の施設でございますが、管理体制につきましては淀江ゆめ温泉の泉源を所有している株式会社白鳳が指定管理者として運営しているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の指定管理者制度で管理をされておられるという状況下で、これも委員会の中で説明があったんですけど、そこで、今の淀江ゆめ温泉の設置経過について、改めて伺っておきたいと思います。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 淀江ゆめ温泉の設置経過についてお答えいたします。平成6年6月に旧淀江町など5者が発起人となり、株式会社白鳳が設立されました。平成7年4月に物産館白鳳の里をオープンいたしまして、地元産品を使用した商品開発や販売、地元の食材を使用したレストラン経営を事業の柱とし、地域振興に取り組んだところでございます。その後、類似した販売施設ができ、経営が苦しくなったことから、その打開策として白鳳の発案により温浴事業を思いつき、白鳳の資金負担で温泉の泉源を掘削することといたしました。しかしながら、白鳳は資金難により自社での建設が立ち行かなくなっこから、当時の淀江町が温泉館を

設置することに至っております。淀江町は株式会社白鳳と賃貸借契約を交わし、賃料は淀江町の起債償還額と同額というものでございますが、有償で白鳳に貸し付ける方式で平成12年8月に淀江ゆめ温泉が開館したものでございます。その後、平成18年4月に指定管理者制度が導入されたことに伴い、指定管理契約に移行し、現在に至っております。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 設置経過並びに設置体制、状況、今、質問しましたけども、さきに9月議会でもありましたように、レジオネラ菌が発生をして同施設が休業したという状況下でございましたが、レジオネラ菌の発生状況について伺わせてください。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 レジオネラ菌発生状況についてのお尋ねでございます。令和7年4月26日にレジオネラ菌発症者が淀江ゆめ温泉を利用していたことが確認されたため、県による立入検査や行政検査としての採水が行われ、同年5月16日に基準値を超えるレジオネラ菌が検出されました。このため原因と推定された設備の運用方法の見直しや修繕を行い、6月11日に営業を再開したところ、7月21日に同様の事例が確認されたため、これは原因は、発見場所は別のところでございましたけれども、県による立入検査や採水が行われ、7月30日に基準値を超えるレジオネラ菌が検出されたものでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 レジオネラ菌が発生して、9月議会でも吉岡議員さんが議論されたんですけども、やはり私はこの状態については

住民に対して大変迷惑をかけていたと、これが実態であろうというふうに思いますが、同温泉における管理体制について、何かぎくしゃくしてゐる面がありますよというような仄聞をいたしましたが、管理体制における責任分担についてどのような状況なのか、これ伺っておきたいと思います。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 淀江ゆめ温泉の管理体制における責任分担についてのお尋ねでございます。淀江ゆめ温泉の施設設置者は米子市でございます。温泉の泉源所有者は株式会社白鳳、施設の指定管理者も株式会社白鳳となっております。また、当該温浴施設の浴場業の許可は株式会社白鳳が鳥取県に申請し、得ているところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 改めますけれども、施設設置者が米子市、源泉者が白鳳、指定管理者がという三極体制でございます。いわゆる指令系統が多元化をされておって、なかなかその辺のところが難しい面があるんではないかなと私は推察をするわけですけども、そのような状況の中で三者の意思疎通が十分に図られておられますか。その辺のところの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 意思疎通の状況についてのお尋ねでございます。令和6年6月に第2株主である民間団体から、より民間主体の経営体制への移行について申出があったことから、さらなる民営化に向けた管理体制に改めたところではございますが、指定管理者として市との関係性に変わりがないため、適宜相互に連絡や

協議を行ってきたところでございます。ただ、今年度2回にわたるレジオネラ菌検出の事案を受けまして、指定管理者から市への報告や相談など、より一層の連携強化を図っていくことを共通認識としたところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 なぜこういうふうな今の経営状況なり、今後の修繕対応、大規模修繕もありますよというような状況、レジオネラ菌の発生状況等を今質問してまいりました。やはり私は思いますが、公が温泉施設を、いわゆる保有管理することを望ましくないというふうに私は見解を持っております。レジオネラ菌が発生した例を教訓に、施設管理に精通する民間管理に私はシフトすべきではないかと思いますが、今後、同温泉施設について民営化をすべきと考えております。市長の見解を伺いたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 ゆめ温泉につきまして、この施設の設置者は、これは米子市でございますが、平成12年の開館以来、一貫して株式会社白鳳が管理運営を行ってまいりました。旧淀江町が当時、ゆめ温泉を造った際、そのときとはもう環境が変わっておりまして、近隣や、あるいは市内に株式会社、あるいは民業として成立しております温泉施設が幾つか既にございます。そうである以上、行政の立場として淀江ゆめ温泉だけに公費を投じて競争させるということは妥当ではないというふうに考えてもございます。そうした意味で、長期的な視点からも、現在の米子市といったしましては、行政として、もう既に民業となっております温浴事業を行う必要はないというのが基本的な考え方でございまして、淀江ゆめ温泉

の民営化について、これまで模索をしてきたところでございます。

昨年6月に第2株主であります民間団体から、より民間主体の経営体制への移行について申出がございましたので、さらなる民営化を進めるために、市が介入しない形での経営体制に移行したところでございます。今後の事業の推移を注視しながら、どのような形で、また、どのようなタイミングで民営化が図れるか、検討してまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の答弁の中で、市が介入しないような経営体制に移行していきたいと。私は、まさにそのとおりだというふうに思っています。私も先般、鳥取県西部広域行政管理組合が保有しておりますうなばら荘、この例を出すのも適切かどうか知りませんけれども、やはり民間に移譲したというような形がございます。こういうふうな温浴施設を私、保持管理するには、やはり民間の英知、ノウハウ、私はそれが求められてくるのでないかなというふうに思います。やはりそういうふうな考え方をこれから注力していくべきだというふうに私は思いますが、改めて市長の見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 今回特に問題となりましたレジオネラ菌の問題がございましたけども、その安全管理ということだけを取り上げたとしても、これは公営であろうと民営であろうと、しっかりやらなければならぬわけですが、民営であれば、そうした様々な安全管理というものを収益の中から工面していくということが筋であり、それができるわけですけれども、これ公営になりますと、そ

うした安全管理を税で賄っていかなければいけない、公費を入れなければいけないということも出てまいります。したがいまして、議員おっしゃるとおり、この辺のノウハウというものはしっかりと民間に任せるべきだ、任せるということは非常に大事なことだというふうに思っております。そういう意味では、この収益の獲得から安全対策まで一貫して実施できる体制、すなわち民営化ということを目指すのは大変重要であると、そのように考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 前向きの強い答弁をいただきましたけど、やはり私は、今の、一番大事なのは、利用していただく市民の方々の安全性、安心性を私は求められるというふうに思います。そのことを私たちが忘れてはいけない。そういうふうな考え方でいけば、踏まえれば、やはり民間の、先ほど市長さんもありましたように、ノウハウ、英知を結集して、この同施設の管理運営を私はなしていくのが必要であろうというふうに思います。改めて、今のこの淀江ゆめ温泉については民営化を図っていくべきで、それを成就していかねばならないというふうに私は強く思っておりますけれども、改めて市長さんの見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 先ほどの答弁と少しかぶりますけれども、既に市内にはこうした温泉施設が民営として成り立っている実績がございます。そうした中、行政として、これ以上特定の民間の事業者に公費を運営資金として投入するということは適切でないというのが考え方の大前提でございます。

淀江ゆめ温泉につきましては、地域で長らく愛されてきました施設でありますので、住民サービスの向上やにぎわいづくりの観点からも、民間のノウハウを活用した民業として経営をしていただくことが持続的な地域の活性化に寄与するものと考えてございます。そのような中、昨年の6月に第2株主であります民間団体からの申出を受けまして、本市から派遣しております役員を引き揚げた形で民間主体の経営体制に移行したということで、さらなる民営化に向けてかじを切ったところでございます。

今後、どのような形で民営化を果たしていくのか、これは適切に検討を行いまして、完全民営化の実現を目指したいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 これは要望ですけども、市長さんがおっしゃいますように、やはり今の利用者の方々の安心・安全をこれは守っていかなければならぬ、これが一番使命であろうというふうに思います。そういうことから鑑みれば、やはり民間の方々の英知を結集した、ノウハウを吸収した中での同施設の管理運営が私は適切であろうというふうに思いますので、その辺のところを十分に考慮した中で、早急的に、スピード的に今の民営化に向けて事務を進めていただきたいと、これは強く要望しておきたいと思います。

以上で私の質問終わります。

○岡田議長 暫時休憩いたします。

午後3時03分 休憩